

令和3年度 中学生の「税についての作文」 高松市長賞受賞



「支えあって成り立っている社会」
香川大学教育学部附属高松中学校1年
三谷 祐樹 さん

今年の夏休み、ネットニュースで取り上げられていたのは、ある有名人の炎上発言。

「僕は生活保護の人たちにお金を払うために税金を納めているんじゃない。生活保護の人達に食わせる金があるんだったら、猫を救ってほしい。ホームレスの命はどうでもいい。」というもので、これに対して、厚生労働省は、公式 Twitter アカウントで、

「生活保護の申請は、国民の権利です。生活保護を必要とする可能性はどなたにもあるものですので、ためらわずにご相談ください。」と発信。有名人の弟も

「人の命を軽くみる発言だけはさすがにダメです。それだけは、絶対に許されない。」

とツイート。いかに勉強不足で無知な発言をしたか、兄に長文メールを送ったそうで、その後、その有名人は、「無知が招いた失態。」

として謝罪した。

コロナ禍の長引く不況や災害、思いがけない出来事で、今までとは状況が変わってしまうことはだれにでもあるだろう。働きたくても働けないこともあるかもしれない。身内や自分の周りの人からの助けが得られないときには、一時的、もしくは、長期的に生活保護の申請をすることは、国民の権利で保障されているのだ。生存権ということばで学習したことを今回、厚生労働省がそう発信したことにより、改めて認識することができた。

“働きアリの法則”というのを聞いたことがある。実は、働きアリのうち、八割がせっせと働き、残りの二割は働かない。（働きアリなのに。）アリの全員が働いてしまうと、全滅する可能性があるらしい。また、八割の働きアリが働けなくなったときには、二割の働きアリが働くようになるそうだ。働かないアリがいることが種の存続には必要で、大きな役割をしている。人間の社会も同じなのかもしれない。今働ける人が支える。働けなくなったら支えてもらう。

生存権と同様に納税の義務も学習した。義務によって納められた税金は、支援が必要な人を支えたり、社会インフラに使われる。

今年開催された東京2020オリンピックの基本コンセプトに「多様性と調和」がある。男子高飛び込み金メダリストのトーマス・デーリー選手は、

「たとえ今どんなに孤独を感じていたとしてもひとりじゃないし、何でも成し遂げられる。あなたを助けてくれるたくさんの仲間がいます」

と言っていたのが印象的だった。

多様な人がいるのが社会であり、一人一人が支えあって生きていく共生社会では、どんなに孤独を感じていても一人じゃないので、困った時には誰かに相談するのが大切だと感じた。僕が使っている教科書も医療費も道路や橋も税金によって賄われている。税金の正しい知識を学んでいきたい。